

あんげろす

「新しい公共」の精神

大志と責務を担った特別な人々が「公」に貢献すべし、と考えた伝統的な価値体系が崩れ、対等な者同士の横の繋がりを利用しながら、ささやかな志と分担できる責任で「良き社会」を構築すべきとする「新しい公共の哲学」が、社会的に共有されつつある。

しかし、そうした人間像の基盤となる精神はまだ模索段階のように思える。伝統的な諸制度が機能障壁に陥り、その構造的な改革の必要性は広く認識されているが、同時に物質的な「成長」だけでは、もはや人々は幸福にはならないことも常識となっている。にもかかわらず「構造改革なくして、成長なし」という、いわば「古い革袋に新しい酒」を入れて満足している。

新たな社会的な目標には、それを支える精神的な基盤の醸成が必要なのだが、「精神なき専門人」の象徴である大学もひとつではない。

鍛治智也

第 35 号

2004. 10.

